

北本市教育委員会

1 研究主題

「滑らかな連携を図る幼・保・小の連携体制の構築を目指して」

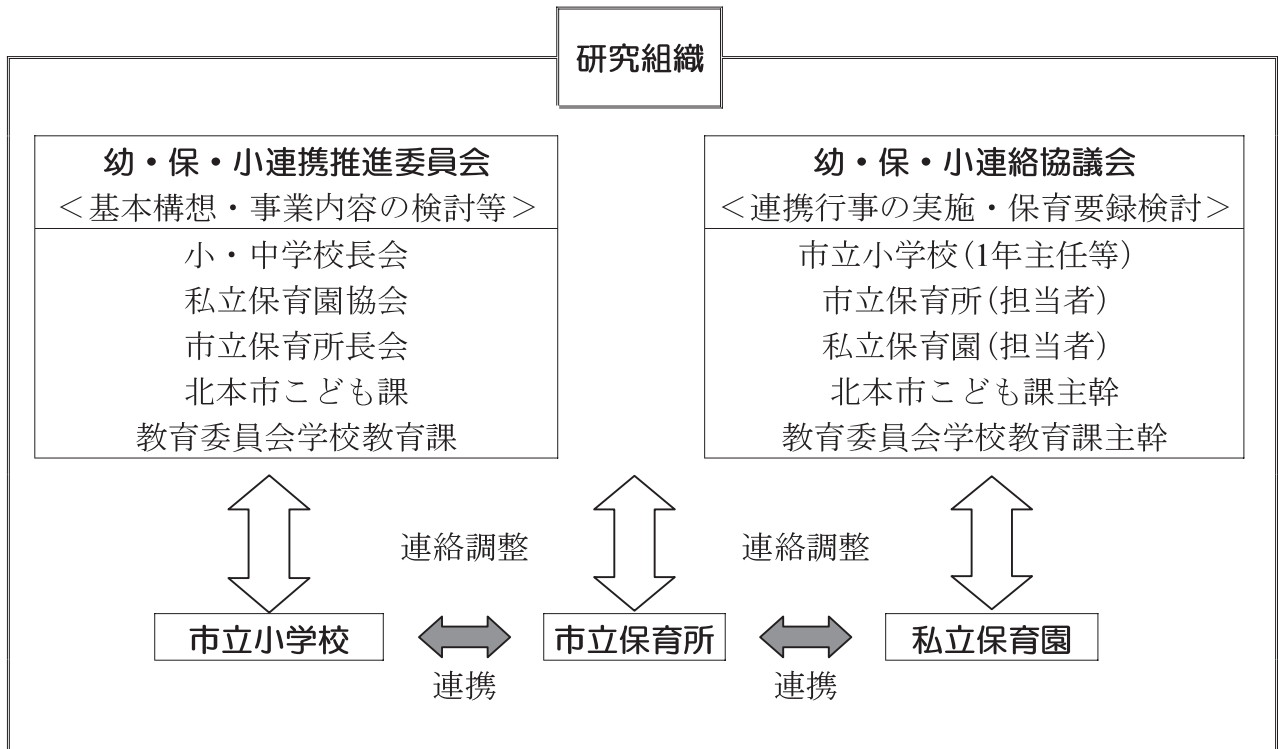
2 ねらい

幼児期の教育から学校教育へと、滑らかな接続を目指した連携体制の構築を図る。

3 本市における各学校等の設置状況（平成21年4月1日現在）

	幼稚園			保育所			小学校
	市町村立	私立	合計	市町村立	私立	合計	市町村立
施設数	0	9	9	4	4	8	8
幼児・児童数	0	1331	1331	390	206	596	3796
教職員数	0	138	138	129	79	208	216

4 幼・保・小連携のための組織



5 事業の年間計画

- ・ 幼・保・小連携推進委員会… 2回
- ・ 幼・保・小連絡協議会… 3回
- ・ 講演会… 7月
- ・ 保育参観、懇談会… 1月

6 研究の具体的な取組

(1) 幼・保・小連携推進委員会

ア 第1回幼・保・小連携推進委員会

- 実施日 平成21年5月27日(水)
- 会場 北本市文化センター
- 出席者 小・中学校長会長、私立保育園協会長、市立保育長会長
こども課長、こども課主幹、学校教育課長、学校教育課主幹
- 協議等
 - ・研究体制について
 - ・年間事業計画について

イ 第2回幼・保・小連携推進委員会

- 実施日 平成22年3月2日(火)
- 会場 北本市教育委員会打合せ室
- 出席者 推進委員
- 協議等 研究事業のまとめについて

(2) 幼・保・小連絡協議会

ア 第1回幼・保・小連絡協議会

- 実施日 平成21年9月8日(火)
- 会場 北本市文化センター
- 出席者 各小学校担当者1名、各市立保育所担当者1名、各私立保育園
担当者1名、こども課主幹、学校教育課主幹
- 協議等
 - ・保育要録の書式について
 - ・保育要録の記載事項について
 - ・保育要録の送付、保管について

イ 第2回幼・保・小連絡協議会(小委員会)

- 実施日 平成21年10月21日(水)
- 会場 北本市文化センター
- 出席者 各市立保育所担当者1名、各私立保育園担当者1名
- 協議等 保育要録の手引き作成について

ウ 第3回幼・保・小連絡協議会

- 実施日 平成21年12月4日(金)
- 会場 北本市文化センター
- 出席者 各小学校担当者1名、各市立保育所担当者1名、各私立保育園
担当者1名、こども課主幹、学校教育課主幹
- 協議等
 - ・保育要録の記載事項
 - ・今後の取り扱いについて
 - ・保育参観について

(3) 講演会

ア 講演会の概要

- 実施日 平成21年8月6日(木)
- 場所 北本市文化センター
- 講師名 埼玉学園大学 岩寄 洋子 准教授
- 対象 市内保育士、幼稚園・小学校教員等
- 演目 「幼・保・小連携の重要性について」



埼玉学園大学
岩寄洋子准教授

イ 公演内容

- 幼・保・小の連続性について
 - ・ 幼児期における学びの芽生えから小学校の教科学習へ
 - ・ 子どもの発達連続性
 - ・ 「段差」と「逆段差」
- 連携の位置づけ
- 具体的な連携の取組例
- 連携の現状
- 取組の意識と関連
- 連携のポイント



講演会の様子

(4) 保育参観と懇談会

ア 期日

- 1月19日(火) 深井保育所・中央保育所
- 1月20日(水) 栄保育所・東保育所
- 1月21日(木) 高尾保育所・中丸保育所
- 1月22日(金) スマイル保育所

イ 参加者

県家庭地域連携課 柿沼指導主事
南部教育事務所 藤川指導主事
各小学校教諭、保育士、学校教育課

ウ 懇談会

授業参観の後、参観を踏まえての懇談会を実施した。懇談会では、学校生活へスムーズに移行できるように話し合いを行った。また、保育公開の子どもたちの様子についても話し合い、保育内容の意義について共通理解を図った。



保育の様子

<懇談内容>

- ア 保育所で大切にしていること
- イ 幼児の様子と保育活動について
- ウ 小学校1年生における課題について

<参加者の感想>

- ・ 保育を参観し、子どもたちがしっかりと自立している姿が窺えた。



懇談の様子

- ・ 体をいっぱいを使い、友だち同士で遊ぶ姿が随所に見られた。
- ・ 小学校入学期における連携が必要だと思った。

7 成果と課題

(1) 成果

ア 連携体制について

- ・ 研究組織を立ち上げ、関係機関等との連携を図りながら、研究推進の基盤をつくることができた。
- ・ 従来は各機関間の連携については、それぞれの単発的な連携に終わっていたのが、組織的な連携をとることができた。
- ・ 市教育委員会として、市こども課との連携についても従来以上に綿密に連携を図ることができた。

イ 連携事業について

- ・ 先進的な実践研究をされている大学教授を講師として迎えた講演会を実施し、参加者にとって幼・保・小の連携の在り方について学ぶ有意義な機会となった。
- ・ 保育参観に、小学校の教員が保育を参観することによって、就学前の幼児の様子を詳しく知ることができた。
- ・ 保育参観に、他の保育所の保育士が参加することによって、保育についての共通理解が進んだ。

ウ 保育要録について

- ・ 平成21年度新たに導入された「保育所児童保育要録」について、連絡協議会において、十分に協議された結果、市としての統一案を作成することができた。
- ・ 年度末には、各保育所で作成した保育要録の写しを各小学校に送付することができ、就学児童の理解に大いに役立つこととなった。

(2) 課題

ア 連携体制について

- ・ 本来は、市内私立幼稚園も連携組織の中に入れていただくことを計画して幼稚園協会との協議を重ねてきたが、準備期間が不足していたために、平成21年度当初の組織に入ることはできなかった。平成22年度からは、幼稚園協会も組織に加わり十分な連携を図っており、今後も市として本事業を継続実施していく。

イ 連携事業について

- ・ 市教育委員会からの一方的な働きかけでなく、各幼稚園、保育所、小学校からの積極的な発案等による連携事業が進むよう、今後も市教育委員会として、市内の関係機関等の連絡調整に努める。
- ・ 各幼稚園、保育所、小学校の保護者等に対するアンケート調査を継続的に実施し、連携事業の成果を把握していく。